

お父様
もう許して！

なにを
言つとるんじゃ
まだ半分しか
約束を
果たしとらんわい

そんな
ヒドイじゃ
ありませんか
も！もう
終わりに
して下さい

あ
ん





ヒヤッヒヤッ
ヒトミさん
まだ
分かつたらん
ようじゃの

お前さんは
ワシを100%
満足させるために
契約したでは
ないか

もつもう
十分にやったはずだわ
私は尽くした
つもりですわっ
ああんッ

甘い甘い
まだワシは30%も
行つたらんわい

そんなッ!!
ああんッ

あんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ

はんっ





濡れ透け人妻の
ワケあり種付け。





私は
『斎藤ヒトミ』

今日も夜が
憂鬱で憂鬱で
仕方がありません

その理由は夫の
『お父様』なんです

毎夜毎夜
私のカラダを
求めてくるのです

もう心が
張り裂けそうに
なるくらい……

でもその運命は
私が選択して
しまったのです

お父様に
借金の返済の
肩代わりをする代わりに
『愛人』なる契約を
結んでしまったのです



ヒトミさん
こんばんわ
ちよつと
おしゃべりでも
しませんかの

お：お父様
私まだ
家事が残って
いますので…

まあまあまあ
座りなさい

ヒトミさん
ワシらは
もう同居して
半年じゃ

そして愛人に
なつて1カ月

そろそろ
ええじゃろ？
え？え？



…そろそろ
つて…？

ウヒヤヒヤ
ヒヤ
アレじゃよアレ
エツチい
なことじゃよ
アヒヤヒヤ

正直
私は一線を
超えることは
なんとしてでも
守つてきました

それは
絶対にやつては
いけない…と

夫を裏切ること
なんでできないと

このお父様に
私の両親の借金を
カタ代わりして
もらった事なんて
言えない

ましてや
義父と愛人契約を
結んだことなんて
絶対に言えない…と





いやんっ！
お父様

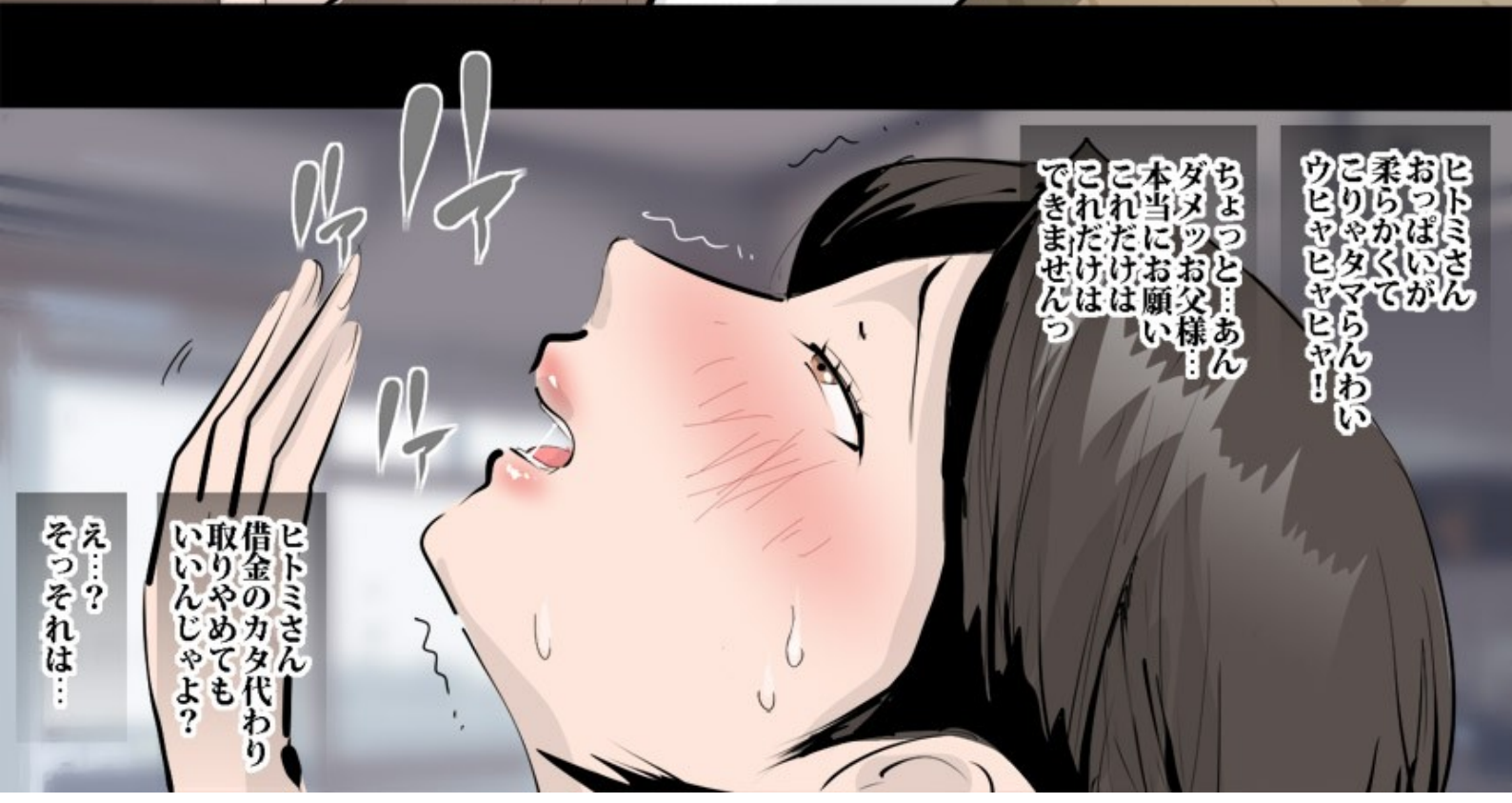
もうワシは
ガマンできん
じや
ちよつとくら
ええじやろ

お父様ッ
ちよつと待つて
私まだ
心の準備が
できてませんっ

もみっ
もみっ
もみっ

チュパ
チュパ

んっ



ヒトミさん
おっぱいが
柔らかくて
こりゃタマらんわい
ウビヤビヤビヤ！

ちよつと！あん
ダメッお父様！
本当にお願
い
これだけは
これだけは
できませんっ

ヒトミさん
借金のカタ代わり
取りやめても
いいんじゃないよ？

え...？
そっそれは...



私は
折れました

お父様の
いう事を聞く
以外の
選択肢はないのです

んぐんぐん

んぐんぐん
んぐんぐん
んぐんぐん

両親が
借金に追われ
体を壊し
入院を繰り返して
24時間365日
返済のために
働いているのを
見てられないのです



ウビヤビヤ
こりやええわい
最高に気持ちええわい

一度
ビトミさんの
おっぱいで
むにゅむにゅ
してみたかったんじや

お父様
夫がそろそろ
帰ってきますわ

もうそろそろ
終わりにして
いただけませんか

むい、
むい、
むい、

むい、
むい、
むい、





何を
言つとるヒトミさん
もうワシは
ピンピンなんじゃ
今さら止められんわい

いやんっ
お父様ッ

挿入れないでっ
それだけは
お願いつ!

おおおおうッ
ヒトミさん
なんちゅー
締まりの良さじゃ
名器じゃよ
これはッ!!





いやあつ
お父様
本当にお願

ダメじゃ
ダメじゃ
ヒトミさん
覚えとるじゃ

ワシが満足するまで
愛人になると
契約したはずじゃ

そ...それはっ
あんっあんっ

こんなもんで
1%も満たんわい
ウビヤビヤビヤ!

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ





私はこうして
お父様と
禁断の行為に
踏み入ったのです

夫のお父様と
禁断の
セックスを
飲んだのです

心は拒否し
体も拒否し
すべてが拒否
している中
でも
カラダを差し
出さなくては
いけないのです

あなた！
ごめんなさい





なっなんのこと...?
わ！わかりませんッ
あんっ

ピトミさん
どうじゃ
ワシのチ○ポは？

たんっ

たんっ

たんっ

たんっ

あ あ

ワシは今でも
自信あるんじゃよ
これでも
何人ものオナゴを
喜ばせて
来たんじゃよ
ウビヤビヤビヤ

デカいじゃろ？
硬いじゃろ？

し！知りませんッ
んっあっああんっ





ハア
ハア
ハア

お父様：
な！生はイヤ
お願いっ
ゴムつけて
あんっ

アビヤビヤ
何をバカなことを

ゴムなんて
わずらわしいもん
興味ないわい
生が気持ちいいんじや
生でないとな
やる意味もないわい

あっあああ！ん
ダメ！おとつ
さまっあんあんっ！！



ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ
ズ





アンタのおっぱい
オ○ンゴ
一級品じゃよ
ウヒヤヒヤ

いやあ
ヒトミさん
最高によかった

ヒドイわ！
本当に出すなんて

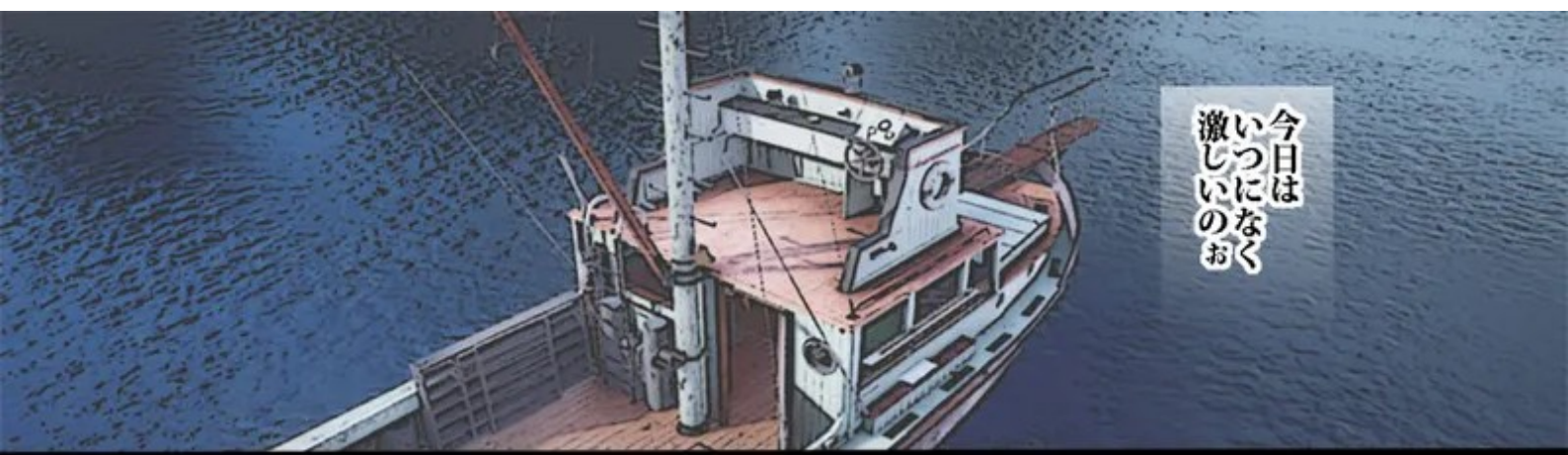
！！
！！
！！

ヒク
ヒク
ヒク

トロも...

うっ...うっ
あなた...
ごめんなさい
こんな
私を許して





今日は
いつもの
お
激しいの



なにか
言いことも
あったのかい
ヒドミさん

し...知りません
いつも通り...
です

あの日
二線を越えた日以来
私は完全に
性奴隷となつて
しまいました

お父様の
思うがままに
私のカラダは
オモチャにされ
ただ欲を満たすだけの
道具になりました
しまいました

むぎぎゅ

むぎぎゅ

むぎぎゅ



ヒトミさん
見れば見るほど
キレイな肌で
むちむちしてて
タマらん裸体
じゃのお

ワシはこんな
素晴らしい
ヒトミさんと
愛人になれた
なんて地球で一番の
幸せ者じゃ

あんっ

んっあつ
お父様！
今日も夫の帰りが
早いので…もう
終わりましたよ…ああん

ダメダメ
これから
じっくりイクん
じゃからの
ウヒヤヒヤヒヤ





性欲絶倫の
お父様は
その行為が止むことは
ありません

しかし
私はもうひとつの
罪悪感生まれて
来たのです

それは「快楽」
だったのです

「ぐはっ
ほっ
ほっ」

「ぐはっ
ほっ
ほっ」

「ぐはっ
ほっ
ほっ」

「ぐはっ
ほっ
ほっ」





夫以外の
男にやられて
感じてしまっ
てるんです

ビクンッ
ビクンッ

あーん

ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ

あっ…あん
お父様
恥ずかしいですっ
もうやめて
お願いっ ああんっ

なんて
エロいオ○ンコ
なんじゃ
ヒトミさんは

おーおーおー
よく愛液が
じゅくじゅく
出とるわい



ウヒヤウヒヤ
美しい顔が
汚れるのも
タマらんわい
ウヒヤウヒヤ

ヤッ



夫とはもう
5年もやってない

5年ぶりに
やったセックスは
自分でも
分からないくらい
の気持ちよさでした

私は確信したんです



私はビッチ

あなた
ごめんなさい
こんな私を
どうか許して

ヒトミさん
もつとシゴシゴ
してくれんと
二発目が出んぞ



「アッ!」
「アッ!」

お父様
腕が疲れて
きまじたわ
早くイッて
ください

ヒトミさんは
いつまでも
エロいお人じゃのお
ウビヤビヤビヤ

おわり

